

研究所だより

教育三笠

第198号

発行/三笠市教育研究所

■新年度のあいさつ
■三笠市立教育研究所運営計画

【萱野中学校】



修学旅行

も花々も、活気あふれる子どもたちの姿とともに一層美しく、新年度の希望あふれる日々を応援しているかのように映ります。各校におかれましては、新入生を迎え新たな一歩をスタートさせたことを思います。登下校の安全指導や日常生活指導を含め、日々のきめ細かい教育活動にご多忙な日々を送られている先生方に心より敬意を表します。

今年度、研究所員四名が入れ替わり、新たな体制で業務にあたっております。昨年度は、副読本の編集ならびに地域素材マップを作成し、研究紀要第127号としてまとめ発刊するなど関係の皆様にも多大なご理解とご支援をいただき計画通りに推進できましたことにお礼を申し上げます。

4月30日には第一回運営委員会を開催し、今年度の業務推進にあたりご検討いただいたところです。今年度も三笠市小中一貫教育推進へ向けての研究協力とコミュニケーション事業への協力を二本の柱に据え研究活動を進めてまいります。特に地域科素材の研究を重点にしながら、系統的な指導案集の作成を視野に、今後各校の先生方と情報交流を緊密にしながら事業を推進していき

ウ、その他、研究会講習会への参加
③研究先進地域、学校等の視察・研修
4. 事業部(成澤)

(1) 所報等の発行に関する事
①所報「教育三笠」の発行(年4回)
②「教育研究所短訊」の発行
③資料、文献の収集と紹介に関する事
④教育関係資料、文献の収集と現場への紹介
⑤研修図書、計画の購入と案内、活用促進
⑥教育相談に関する事
⑦青少年育成センターとの関連で、教育相談についての研究協力、資料などの提供に努める。

IV. その他
1. 教科及び教科外指導の協力・相談について
①小学校関係担当 (納口・成澤)
②中学校関係担当 (高島・大館)

2. 研究指定校の担当について
三笠小学校、三笠中学校 (所長・全所員)
三笠市立三笠小学校 (高島)

3. 振興会事務局担当 (成澤)

4. 生徒指導連絡協議会 (大館)

5. 情報教育推進委員会 (大館)

V. 勤務
毎週水曜日・金曜日を定例の出動日とし、15時から17時まで勤務する。

VI. 機構図
三笠市教育研究所条例施行規則 第3条の規定により右上図のように定める。

学びの中に輝きを 三笠市教育研究所長 松井 牧子



アカシアの樹木の間より、初夏の涼風が三笠の街並みにそよぐ頃となりました。各校の校庭の緑も花々も、活気あふれる子どもたちの姿とともに一層美しく、新年度の希望あふれる日々を応援しているかのように映ります。各校におかれましては、新入生を迎え新たな一歩をスタートさせたことを思います。登下校の安全指導や日常生活指導を含め、日々のきめ細かい教育活動にご多忙な日々を送られている先生方に心より敬意を表します。

今年度、研究所員四名が入れ替わり、新たな体制で業務にあたっております。昨年度は、副読本の編集ならびに地域素材マップを作成し、研究紀要第127号としてまとめ発刊するなど関係の皆様にも多大なご理解とご支援をいただき計画通りに推進できましたことにお礼を申し上げます。

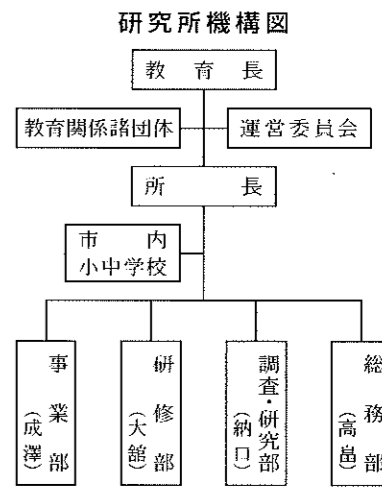
4月30日には第一回運営委員会を開催し、今年度の業務推進にあたりご検討いただいたところです。今年度も三笠市小中一貫教育推進へ向けての研究協力とコミュニケーション事業への協力を二本の柱に据え研究活動を進めてまいります。特に地域科素材の研究を重点にしながら、系統的な指導案集の作成を視野に、今後各校の先生方と情報交流を緊密にしながら事業を推進していき

たく考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

空知管内教育の重点は「ふるさと空知を愛する子の育成」であります。本市三笠市では、長年にわたり、三笠の美しい山々や河川等の自然、炭鉱遺産をはじめとする人々の知恵や暮らしへの足跡を学習しながら、将来に向けて自立できる力を培うことを大切にしてきています。家庭と地域と学校が総がかりで大切な子どもたちを守り育てることを重要視してきた教育はまさに先駆的な取り組みを実施していると言えます。将来に生き抜く学力をしっかりと定着させ、自立への道を切り拓くことができるよう、教師間の学びのネットワークを高める研究所としての存在を模索していきたいと考えております。

一時間毎の学習で、できた喜び、わかった満足感を味わい、学級の中で学校の中で自己達成感に溢れ輝く子らの笑顔あふれる三笠の教育充実へ向けて、研究所も努力してまいりますのでよろしくお願いたします。

三笠市研究所は、昭和34年4月1日に発足し、地域性豊かな学校教育の発展を目指し、調査研究活動を重ねてきた55年に亘る歴史があります。教職員の皆様のお力添えをいただきながら、全所員で各校の教育活動の支援にあたり、授業で活用できる資料の作成を目指すとともに、資料の提供や研究活動により、互いのネットワークを作り広められるよう今年も取り組んでまいります。時間がありましたらどうぞ研究所にお気軽にお寄りください。今年度も関係の皆様のご支援をお願い申し上げます。



- (2) 関係機関・団体との連絡調整に関する事
- ① 振興会との連携
- ア、総会・部会結成・研究大会の準備
イ、実技講座の実施
ウ、その他必要に応じた業務の推進
- ② 管内教育研究所との連携
ア、管内教育研究所連絡協議会の開催に関する事
- (3) 運営委員会に関する事
- ① 運営委員会の業務と資料の整理・保管
② 運営委員会と連絡調整
③ 会議の運営に関する事
- (4) 公簿の整理・保管と庶務的事項の処理に関する事
- (5) その他、各部に属さない事
2. 調査・研究部(納口)
- ① 各種、教育の調査・研究に関する事
② 教育現場その他の団体からの意見の集約
③ 教育関係調査の実施と集約
ア、教育課程に関する事
イ、学習指導に関する事
ウ、教科書、その他の教材に関する事
エ、教育活動に関する事
- (2) 研究課題の設定と推進・集約に関する事
- ① 研究課題

- 『小中一貫教育に資する地域素材の研究』
地域科等への活用を目指して』
- ② 研究の方法
ア、所内で右記の課題について、研修を深める。
イ、専門員会議を開催する。
- (3) 研究成果の普及・奨励に関する事
- ① 研究成果の発表と実践検証の促進
② 各研究機関・団体・学校等の研究成果の紹介
3. 研修部(大館)
- (1) 教育実践の専門的事項の指導・助言に関する事
- ① 各校の実践課題及び研究計画を把握し、研究実践に協力する。
ア、各校研究計画の紹介と交流の促進
イ、校内研究への積極的参加
ウ、研究資料、情報の提供
エ、研究成果の交流
- (2) 研究指定校等、各校との連絡・提携に関する事
- ① 研究指定校及び各校の研究の主体性を尊重し、共同研究の立場で積極的に参加し、協力を図る。
ア、研修担当者との連携を密にし、相互理解を図る。
イ、校内研究、学習会への積極的参加
ウ、関係機関・団体との連絡調整
エ、研究課題の研究と共に、資料情報の提供
- ② 振興会研究指定校
三笠市立三笠小学校
三笠市立三笠中学校
- (3) 所内研修に関する事
- ① 所内研修の企画・推進
② 各種研究会、講習会への積極的参加と現場還流の促進
ア、道研連所員研修会への参加
イ、全教連、道研連研究大会への参加・発表

- ウ、その他、研究会講習会への参加
③ 研究先進地域、学校等の視察・研修
4. 事業部(成澤)
- (1) 所報等の発行に関する事
①所報「教育三笠」の発行(年4回)
②「教育研究所短訊」の発行
③資料、文献の収集と紹介に関する事
④教育関係資料、文献の収集と現場への紹介
⑤研修図書、計画の購入と案内、活用促進
⑥教育相談に関する事
⑦青少年育成センターとの関連で、教育相談についての研究協力、資料などの提供に努める。
- IV. その他
1. 教科及び教科外指導の協力・相談について
①小学校関係担当 (納口・成澤)
②中学校関係担当 (高島・大館)
2. 研究指定校の担当について
三笠小学校、三笠中学校 (所長・全所員)
三笠市立三笠小学校 (高島)
3. 振興会事務局担当 (成澤)
4. 生徒指導連絡協議会 (大館)
5. 情報教育推進委員会 (大館)
- V. 勤務
毎週水曜日・金曜日を定例の出動日とし、15時から17時まで勤務する。
- VI. 機構図
三笠市教育研究所条例施行規則 第3条の規定により右上図のように定める。

り、研究所に足を運んで利用してください。なお、研究所では今年度、次の書籍を定期購読していますので、「ご利用ください」。

▼教育科学 国語教育(明治図書)
▼教育科学 数学教育(明治図書)
▼教職研修(教育開発研究所)
▼実践障害児教育(学研教育出版)
他にも希望する研修図書や雑誌などありましたら、研究所にお伝えください。

今年度最初の所報「教育三笠」を発行できました。教育委員会、各教育関係機関ならびに教職員の皆様には原稿の依頼などお世話になりました。ありがとうございました。年4回の所報「教育三笠」を通して、三笠の教育の動きをつかむ一助になれば幸いです。

研究所は、水曜日と金曜日の午後3時から5時まで所員が勤めています。日々の実践に活用できる資料も多数ありますので、気軽にお越しください。今年度も引き続き、研究所へのご協力をお願いいたします。

三笠市教育研究所所報

発行日 平成26年6月23日
発行所 三笠市教育研究所
代表 松井 牧子
三笠市若草町404
電話 212197番

印刷所 中央印刷株式会社

編集後記

三笠の教育のさらなる前進に向けて
三笠市教育委員会教育長 北山 一幸



三笠の子どもの教育のため、教育研究所をはじめ、教育関係者の皆様には、ご協力ご尽力いただき、心から厚く感謝申し上げます。

さて、近年の少子高齢化や高度情報化を背景として、教育を取り巻く環境が大きく変化するなかで子どもたちの学ぶ意欲の低下や学力・体力の低下など、様々な課題が指摘されており、

国においては「教育基本法」の理念を具体的に実現するための「教育振興基本計画」に基づき、学習指導要領が改訂され、子どもたちの「学力向上」と「生きる力」を育むための取り組みが進められております。

次代を担う子供たちが、変化の激しいこれからの社会を生きていくために、直面した課題に立ち向かい、自ら、乗り越えていく力を育てていくことが、今、まさに教育に求められております。

このことから、本市の教育行政の執行にあたっては、第八次三笠市総合計画の基本目標に沿って、各種施策を着実に推進するとともに、地域に根差した教育を実践し、生まれ育ったふるさと三笠に愛着と誇りを持って、将来に向かって夢や希望を描ける子どもたちを育て、市民一人ひとりが充実した人生を送ることができるよう、教育行政の推進に努めてまいります。

義務教育においては、市内全小中学校において、小中一貫教育を実践するとともに、三笠小学校三笠中学校では、コミュニケーションス

クールを推進し、地域全体で子どもを守り育てる環境づくりと学力向上に向けた取り組みを推進しております。

また、小学校給食費の無料化や幼稚園授業料・保育所負担金の実質無料化などの子育て支援のほか、スポーツ少年団活動を支援するため、プロの指導者を招致する「スポーツ環境充実事業」のほか、三笠中学校吹奏楽部の演奏技術の向上を図るために、札幌交響楽団所属の演奏者を招致するなど、子どもたちの夢や希望を応援するべく取り組みを展開しております。

また、平成二十四年四月に道立高校から市立高校として、再出発した「市立三笠高等学校」は、学校教育の基本方針である「地域に開かれ、地域に教育の場を求め、地域とともに歩む」学校づくりを実践しながら、「食のスペシャリスト」として地域に貢献できる人材の育成に努めております。

今年度は、開校三年目となり、新たに四十名の新入生を迎え、三学年編成となり、より安定した教育活動が展開されることとなります。

三笠高校の生徒たちは、教職員の皆さんのご指導のもと、自らの夢の実現に向けて、着実に成長しており、連日、まちに明るい話題を提供して頂いております。

本校に夢と希望を抱いて入学してくる子ども達の貴重な三年間をしっかりとお預かりし、夢の実現に向けて着実に前進できるように、教職員の皆さんとともに、取り組んで参りたいと考えております。

以上、三笠市の学校教育を取り巻く環境の一端を紹介させて頂いた頂きましたが、教職員の皆様におかれましては、校長先生のリーダーシップの下、教育公務員としての自覚と誇りを持って頂き、子ども、地域から信頼され、

子どもたちの健やかな成長を願って

萱野中学校 加藤 節夫



昨年、三笠市に転入してまいりました。この1年、「地域科」「小中一貫教育」「コミュニケーションスクール」など、三笠市が独自の取り組みを進めていること、そして、それには、教育委員会、研究所、博物館などの機関が大きく関わっていることがわかりました。さらに、三笠市出身の漫画家の講演に小中学生が参加した進路講話、農園訪問や田植えなどを体験する学習からも、地域全体で子どもたちを育てようとしていることも実感しました。

「まちづくりと教育」と題した市長の提言の中にも「地域が応援団となる学校づくり」との記載がありました。現在の子どもたちを取り巻く環境は、情報機器の発達一つをとっても生活スタイルや友人とのコミュニケーションのとり方、それによって生じる問題など、大きく変わってきています。学校に求められていることも多岐にわたっています。「いじめ」「学力向上」などは、道議会でもたびたび取り上げられているものです。

そんな中、三笠市のように地域が応援団となり、学校づくりを進めていけることは意義のあることと思います。一つの事象に対して、さまざまな見方捉え方があり、方策も異なっています。子どもたちの健やかな成長を願っているという点においては異なるものではないと、三笠市に勤めるものとして、三笠市の子どものためにできることを、精一杯取り組んでいきたいと考えています。



夢の実現に向けて

北海道三笠高等学校長 高瀬 雅朗



平成24年4月8日に開校式を実施してから、早くも3年目を迎え、生徒も1開口3学年の定数である120名となりました。

開校以来、目的意識を高く持った全道から集まった生徒たち、「夢の実現」と「地域とともに歩む」を柱として、教育を進めてきました。「夢の実現」の観点では、24年度から各種コンクールにチャレンジし、成果を収めてきました。当初は「調理部」のチャレンジのみでしたが、現在は「製菓部」のチャレンジもあり、加えて、各自の進路実現にも力を注いできました。25年度からスタートしたインターシップ(就業体験)では、個々の生徒の希望をとり企業を開拓することから教職員が取り組み、受け入れ先企業から高い評価をいただきました。現在、その企業の方による進路講演を実施したり、様々なイベントへの参加に関する橋渡しをしていただいたりなど、様々な活動への協力をくださっているところです。

「地域とともに歩む」の観点では、他校種との交流がまずあげられます。「市立」の高校ということもあり、他校種の様々な教育活動に貢献できればと取り組んできました。現在では、幼・小・中・高の各校種の間で、細いながらもパイプが出来、取組も少しずつではありますが、

すが幅を広げていると自負しています。また、「地域連携部」を中心として、「調理部」「製菓部」の部活動が、地域の方々の活動等に貢献できているのではないかと考えています。

今年度は、いよいよ第1期生の卒業年度となります。現在、4割の進学希望者と6割の就職希望者の具体的な進路先を固めるべく三者面談を計画しているところです。高校は社会への入口です。地域に貢献できる有為な社会人として送り出せるよう、日々の教育に全力を傾けることに教職員一丸となって頑張っております。

少子化に伴って

三笠の教育はどうなるのか
三笠市教育振興会会長 順毛 誠一



少子化に伴い様々な課題が浮き彫りになってきている今日、私たち教育現場にいるものにとっても目に見えるような変化

を実感するようになってきました。年々変化する教育環境にどのように対処していけばいいのでしょうか。将来を見据えた教育システムの構築で子どもたちの可能性を伸ばす教育を創造していくことが求められているのではないのでしょうか。これからも、三笠市教育研究所のご支援ご協力、さらに、教育委員会の指導いただきながら、この大きな課題に立ち向かっていくために、いまなすべきことを見通しを持って取り組んでいくことが学校に求められていると思います。さて、三笠市においては統合が一段落し、三笠小学校では一学年二学級編成でス

三笠市教育委員会英語指導助手

リー・デボラ



こんにちは！私はデビーと申します。出身はアメリカのフィラデルフィア市で、趣味は旅行と読書です！三笠小学校・岡山小学校・萱野中学校のALTです。三笠の子供たちはとてもかわいくて素直で、国際科の授業や公民館の親子英語教室などで触れ合いながら毎日楽しく過ごしています。学校や教室の外でも、三笠でデビーを見かけたら、「Hello！」と言ってくれたら嬉しいです！

三笠市教育委員会英語指導助手

マッカーシー・イーファ



はじめまして。アイルランドから来たALTのイーファです。去年の8月から、三笠小学校・三笠中学校・三笠藤幼稚園で英語を教えています。残念ながら8月に帰国し、10月にイギリスの大学院に入ることになりました。短い間でしたが、ここで経験した様々な思い出を決して忘れません。三笠はとても素敵なところで、来られて幸運だと思います。最後まで英語を教えるのを頑張りたいです。よろしく申し上げます。

平成26年度 教育研究所運営計画

I. 運営方針

今日の教育の方向性や教育の実態等を的確に把握し、教育研究の科学性、時代性、即時性、先導性に立脚した教育に関する理論と実践の研究を行う。併せて、市内各校における教育活動が、意欲的かつ効果的に進められるよう研究協力・指導・助言の機能を十分に発揮し、市教育の振興に寄与する。

II. 運営の重点
1. 新教育課程の編成・実施についての調査・研究に努める。

2. 教育現場の課題を把握し、実践に役立つ調査・研究に努める。

3. 教育に関する情報を広く収集し、提供と活用を努める。

4. 各校と連携・交流を深め、実践課題の究明に努める。

II. 運営方針

5. 研修事業の効果的な推進に努める。
6. 広報活動の充実と活発化に努める。
7. 振興会との連携を深め、所務の円滑な推進に努める。

8. 道研連・各教育研究所・道内教育研究機関・団体との連携・交流を深め、研究事業の充実に努める。
9. 運営委員会を開催し、所務の適正な運営に努める。

III. 運営計画

1. 総務部(高島)

(1) 所務の総括と企画・運営に関すること

(2) 各部業務の連絡・調整

(3) 所員会議の企画・運営